

# 飼料用米について……

# 飼料用米生産量(28年産)

県名	平成28年産			平成27年産		県名	平成28年産			平成27年産	
	飼料用米 生産量	前年比	シェア	飼料用米 生産量	シェア		飼料用米 生産量	前年比	シェア	飼料用米 生産量	シェア
栃木県	55,003	112.5%	13.1%	48,874	11.6%	富山県	4,365	128.1%	1.0%	3,407	0.8%
青森県	42,284	102.8%	10.0%	41,130	9.8%	高知県	4,327	105.8%	1.0%	4,090	1.0%
茨城県	41,180	112.2%	9.8%	36,698	8.7%	滋賀県	4,309	127.3%	1.0%	3,386	0.8%
宮城県	31,455	121.8%	7.5%	25,834	6.1%	鹿児島県	4,035	110.8%	1.0%	3,643	0.9%
福島県	28,527	146.1%	6.8%	19,530	4.6%	徳島県	4,017	86.1%	1.0%	4,666	1.1%
千葉県	25,922	121.3%	6.2%	21,362	5.1%	山口県	3,976	132.7%	0.9%	2,996	0.7%
岩手県	25,031	113.6%	5.9%	22,043	5.2%	石川県	3,493	127.9%	0.8%	2,731	0.6%
山形県	23,047	103.3%	5.5%	22,301	5.3%	広島県	2,831	142.1%	0.7%	1,992	0.5%
新潟県	21,865	118.0%	5.2%	18,523	4.4%	宮崎県	2,440	110.0%	0.6%	2,218	0.5%
秋田県	17,641	106.7%	4.2%	16,540	3.9%	佐賀県	2,289	124.3%	0.5%	1,841	0.4%
北海道	15,084	120.5%	3.6%	12,523	3.0%	長野県	2,211	94.3%	0.5%	2,345	0.6%
埼玉県	13,908	102.6%	3.3%	13,559	3.2%	愛媛県	1,736	147.5%	0.4%	1,177	0.3%
岐阜県	13,814	118.8%	3.3%	11,627	2.8%	香川県	1,694	90.6%	0.4%	1,869	0.4%
福岡県	9,291	123.0%	2.2%	7,552	1.8%	兵庫県	1,388	156.8%	0.3%	885	0.2%
群馬県	9,096	105.0%	2.2%	8,659	2.1%	長崎県	865	112.9%	0.2%	766	0.2%
三重県	8,936	127.5%	2.1%	7,007	1.7%	京都府	687	123.1%	0.2%	558	0.1%
愛知県	8,934	101.8%	2.1%	8,775	2.1%	奈良県	351	113.2%	0.1%	310	0.1%
岡山県	8,086	130.9%	1.9%	6,176	1.5%	山梨県	87	122.5%	0.0%	71	0.0%
大分県	7,553	109.0%	1.8%	6,931	1.6%	神奈川県	83	105.1%	0.0%	79	0.0%
熊本県	6,776	101.5%	1.6%	6,679	1.6%	大阪府	28	200.0%	0.0%	14	0.0%
島根県	5,933	104.5%	1.4%	5,675	1.3%	和歌山県	15	88.2%	0.0%	17	0.0%
福井県	5,834	156.4%	1.4%	3,729	0.9%	東京都	0		0.0%	0	0.0%
鳥取県	5,812	102.1%	1.4%	5,694	1.4%	沖縄県	0		0.0%	0	0.0%
静岡県	5,230	113.8%	1.2%	4,595	1.1%	合計	481,468	114.3%	114.3%	421,077	100.0%

# 飼料用米に関わる国の方針

- 平成27年3月末に飼料用米生産拡大を閣議決定
  - ・平成37年産飼料用米、110万トンの生産を目指す  
つまり、27年産42万トンから毎年約8万トンを上積みしていく
  - ・米農家、米集荷業者、畜産農家、飼料メーカー、財務省等へ国の本気度を示す

# 新規需要米制度の概要

☞これ以外にも県や市町村からの助成がある場合も！

水田活用の直接支払交付金

【28要求:3,177億円】

## 水田活用の直接支払交付金

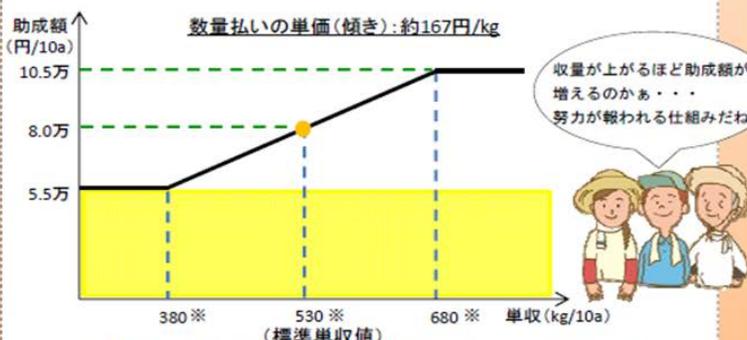
水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力の向上を図ります。

### (1) 支援内容

#### ① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	35,000円/10a
WCS用稲	80,000円/10a
加工用米	20,000円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 55,000円～105,000円/10a

＜飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ＞



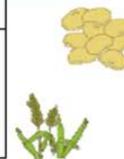
- ・数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量の確認を受けていることを条件とします。
- ・※は全国平均の年平均単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。

#### ② 二毛作助成

- 水田における主食用米と戦略作物助成の対象作物、又は戦略作物助成の対象作物同士の組み合わせによる二毛作を支援します。

15,000円/10a

作付パターン(例)	交付金額(10a当たり)
主食用米 + 麦	(米の直接支払) + 1.5万円
麦 + 大豆	3.5万円 + 1.5万円
飼料用米 + 麦	5.5～10.5万円 + 1.5万円
米粉用米 + 飼料用米	5.5～10.5万円 + 1.5万円



#### ③ 耕畜連携助成

- 耕畜連携の取組(飼料用米のわら利用、水田放牧、資源循環)を支援します。

13,000円/10a

#### ④ 産地交付金

- 地域で作成する「水田フル活用ビジョン」に基づく、①水田における麦、大豆等の生産性向上等の取組、②地域振興作物や備蓄米の生産の取組等を支援します。
- 国から配分する資金枠の範囲内で、都道府県や地域農業再生協議会が助成内容(交付対象作物・取組・単価等)を設定できます。
- また、地域の取組に応じた追加配分(下表参照)を行います。

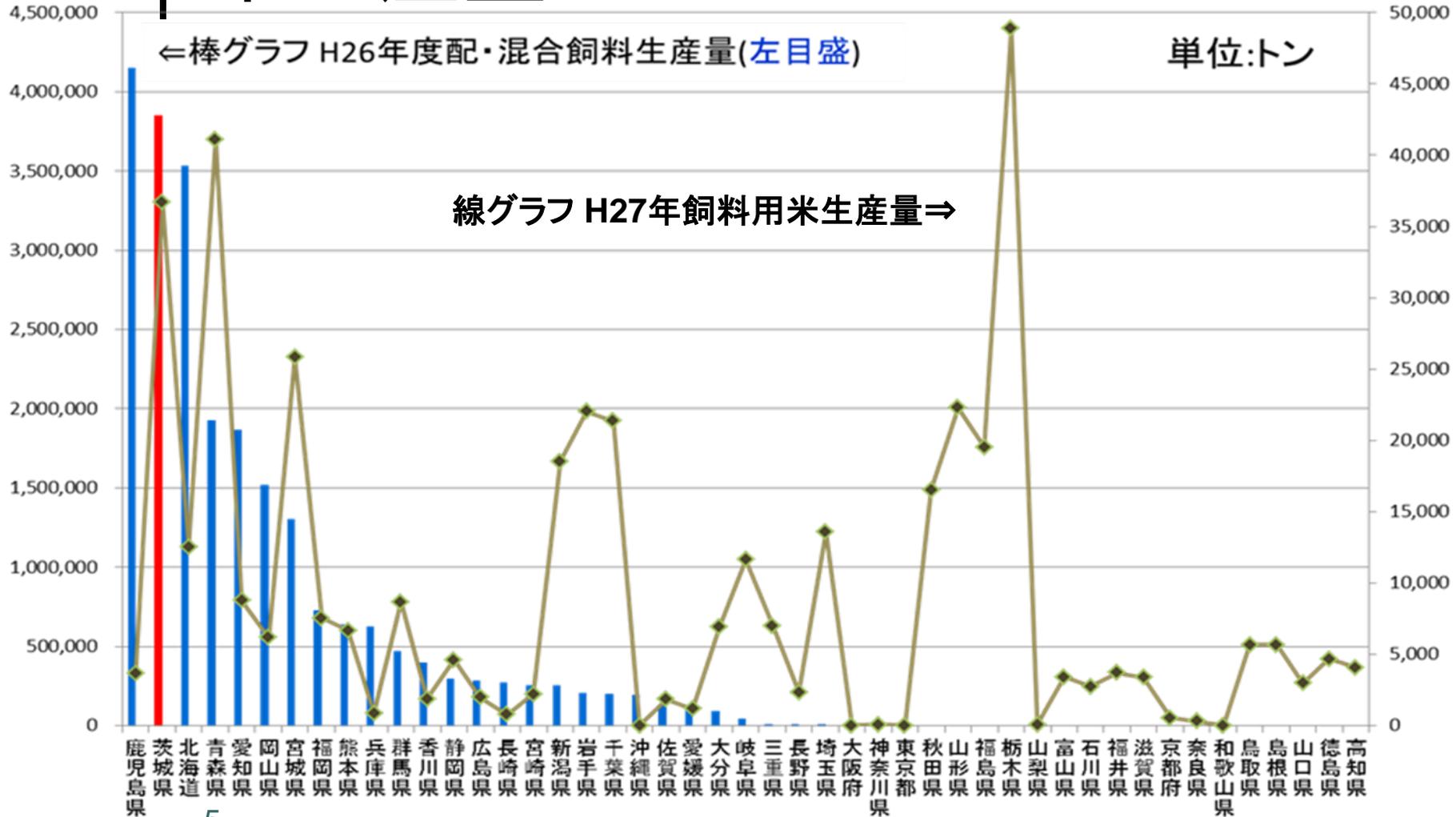
対象作物	取組内容	追加配分単価
飼料用米 米粉用米	多収性専用品種への取組	12,000円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組	12,000円/10a
備蓄米	平成27年度政府備蓄米の買入 入札における落札 ※平成23年度に農別優先枠として配分した6万 トンについては対象外。	7,500円/10a
そば なたね	作付の取組	20,000円/10a(基幹作) 15,000円/10a(二毛作)

なお、主食用米作付面積が生産数量目標の面積換算値を下回ることとなる都道府県に対して追加配分(5,000円/10a)します。

# 配混合飼料の生産量と飼料用米生産量

出典 農林水産省

単位:トン



# 米の栄養成分の比較

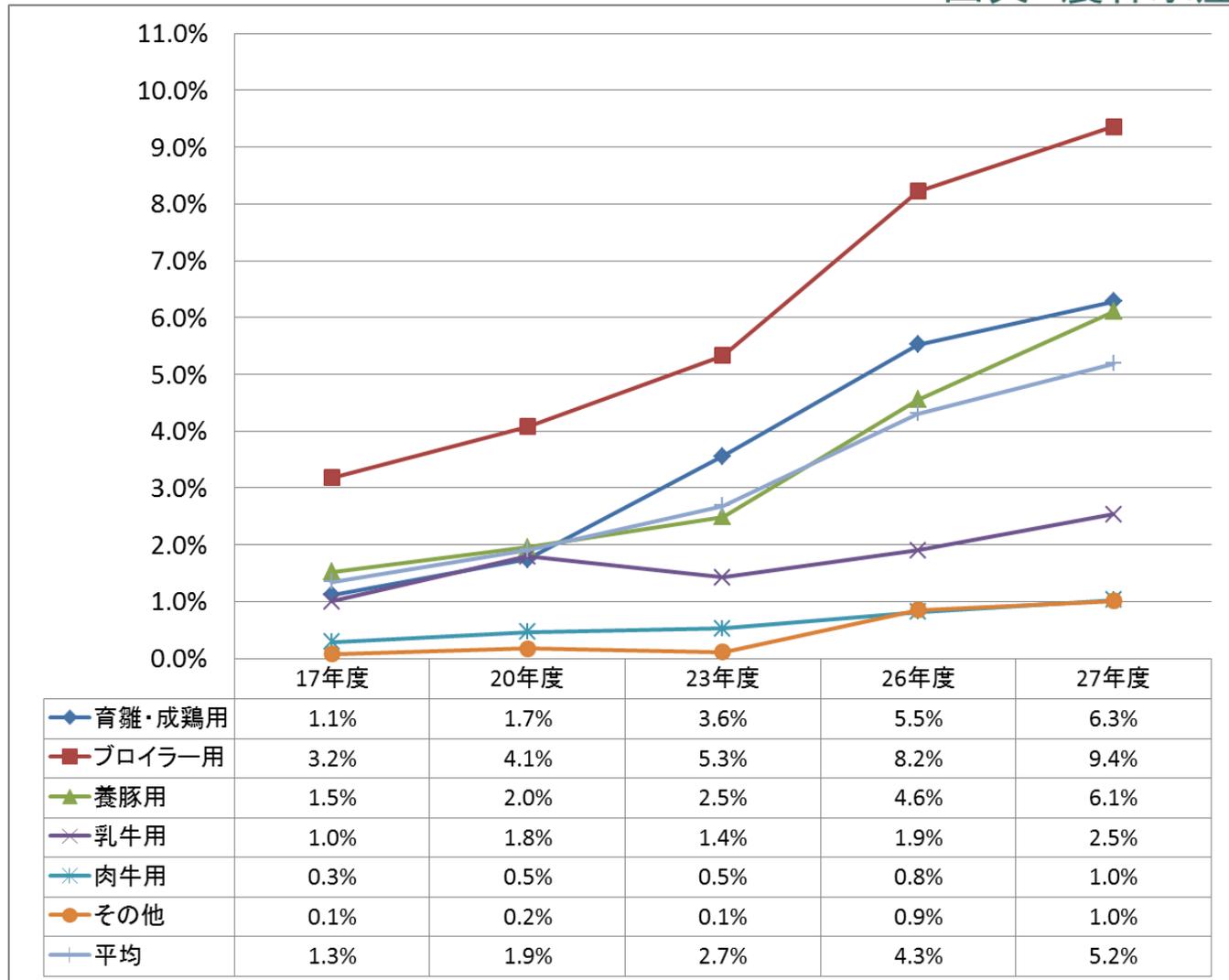
米の飼料価値【日本標準飼料成分表(2009年版)】

・上段: 現物中の成分含量    ・下段: とうもろこしの成分を100とした時の比率

成分	水分	タンパク質	脂肪	でんぷん	繊維	灰分	エネルギー価		
							牛	豚	鶏
原料名	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	TDN(%)	TDN(%)	ME(Kcal/kg)
とうもろこし	14.5	7.6	3.8	71.3	1.7	1.2	80.0	80.8	3,280
モミ米	13.7	6.5	2.2	63.6	8.6	5.4	67.1	64.0	2,660
	94	86	58	89	506	450	84	79	81
玄米	14.8	7.5	2.7	72.9	0.7	1.4	80.9	82.0	3,280
	102	99	71	102	41	117	101	101	100
精白米	13.9	6.8	0.5	78.2	0.2	0.4	80.3	83.2	3,440
	96	89	13	110	12	33	100	103	105

# 畜種別・お米の配合率

出典 農林水産省



# 配合飼料への畜種別配合量

畜種	ステージ	玄米・精白米
採卵鶏	育成(雛)・成鶏 ※	10～25%
ブロイラー	餌付・前期・後期・仕上	5～20%
豚	子豚・肉豚・種豚	10～30%
牛	乳牛育成・泌乳期	3～10%
	肉牛育成・肥育	～10%
水産用		数%

※ 採卵鶏成鶏用では、卵黄色の色素を調整する必要がある！



# お米使用上の留意点

## ◆採卵鶏(レイヤー)用

- ・丸粒か荒粉碎で使用(微粉碎は喰い残しにつながる)
- ・卵黄色の低下に注意(パプリカ等の増配合で対応)

## ◆ブロイラー用

- ・無粉碎か荒粉碎で使用(微粉碎は喰い残しにつながる)
- ・高配合率の場合、軟便(床湿り)の危険性あり(特に精白米は注意)

## ◆豚用

- ・丸粒や荒粉碎だと未消化排便(糞中排泄)
- ・マッシュ製品は微粉碎だと喰い残し

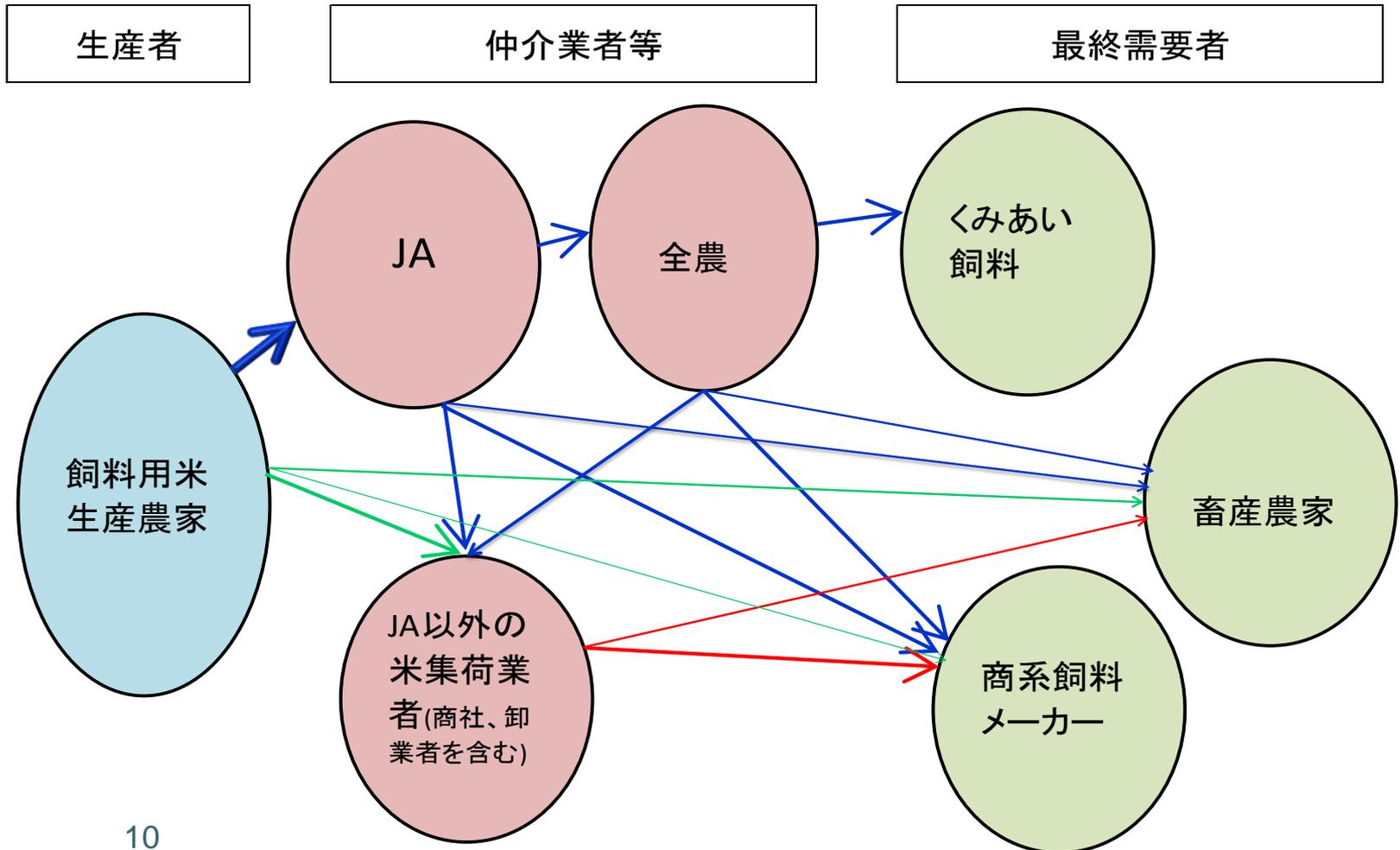
## ◆肉牛用・乳牛用

- ・丸粒だと未消化排便(糞中排泄)

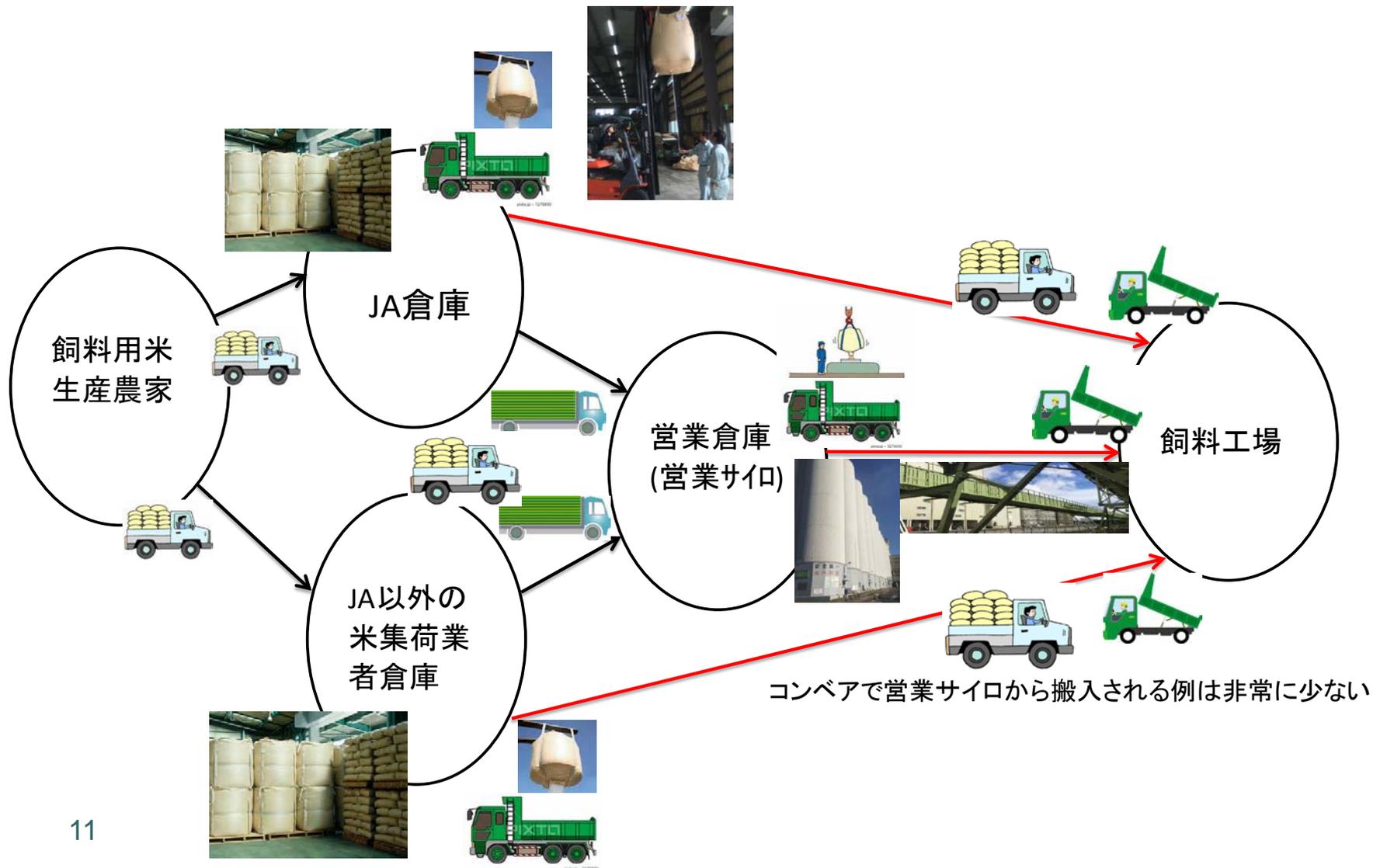
## ◆輸入長粒米(タイ米等)

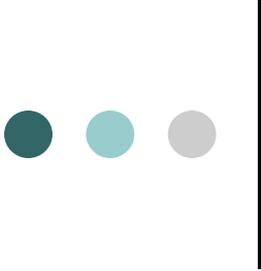
- ・高配合率の場合、FRPタンクからの難排出に注意

# 飼料用米の商流



# 飼料用米の物流





# I 飼料用米の課題(立地面)

お米産地と畜産産地が同立地でない地域がある

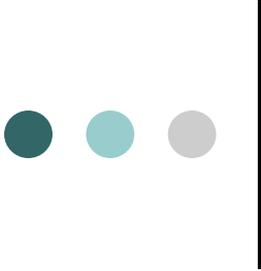
➤例えば、南九州地区。鹿児島県は日本最大の飼料生産県だが、南九州はお米の生産は少なく、当然飼料用米の生産も少ない

## II 飼料用米の課題(設備面)

飼料用米の流通は純バラがまだまだ少なく、フレコンや紙袋が多く、物流に難点がある

➤ 飼料用米は主にとうもろこしの代替原料であるが、とうもろこしは5~6万トン積載できるパナマックス船からグレーンサイロにて荷揚げされ、ベルトコンベアで飼料工場へ送られている。

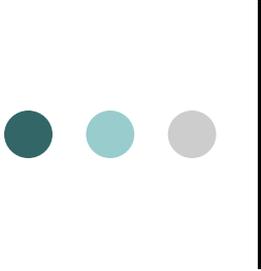
➤ 飼料用米の大量受入には工場での設備投資が必要。受入設備能力向上、受入解袋人員確保、タンク増設、ライン増設、粉碎能力向上など。



### Ⅲ 飼料用米の課題(物流面)

#### 飼料用米を保管する倉庫が少ない

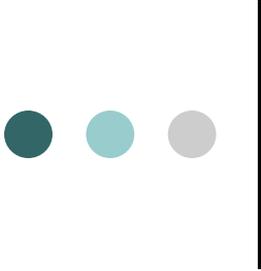
- 飼料メーカー近隣の営業倉庫が十分な定温倉庫を所有していない地域がある
- 紙袋やフレコンの一部は営業倉庫で解袋され、飼料工場に純バラ搬入されているが、そういった作業をしてくれる倉庫の少ない地域がある
- 最近は低温倉庫等の建設が進んでいる地域もあり、解消傾向にある



## IV 飼料用米の課題(コスト面)

収穫以降長期保管すると保管料がかさみ  
、1年間の後半は割高になる

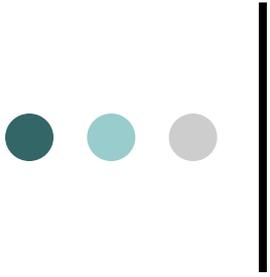
➤実質的に出来秋～3月の約半年間での消化可能量しか手当てできない。



## V 飼料用米の課題(値決め時期)

飼料用米の契約時期が6月末、に対して  
とうもろこしの10～12月渡価格の値決めは  
7月～10月頃。

両者にはタイムラグがあり、シカゴ定期や  
為替相場の動向によっては飼料用米が  
とうもろこしより高くなってしまう場合がある。



ご清聴ありがとうございました。

日本の畜産の将来を考える会